

令和4年度第2回香美市障害者自立支援協議会会議録要旨

- 1 日 時 : 令和5年2月20日(水)10時00分から11時30分まで
- 2 場 所 : 香美市役所3階会議室
- 3 出席者 : 秋友会長、弘末副会長岡本委員、濱田委員、西尾委員、藤堂委員、福島委員、大谷委員、森委員、高橋委員、中野委員、竹崎委員、宗石千佳委員、宗石こずゑ委員、中山委員、山中委員、立川委員、住友アドバイザー、高知県障害福祉課
- 4 欠席者 : 尾崎委員、上島委員、

5 会議録要旨

(1) 相談支援部会からの報告

【資料説明】

- ・相談支援部会は2ヵ月に1回の開催とした。毎回参加機関の取組状況の意見交換と新型コロナウイルス感染症に係る情報共有を実施。
- ・個別ケースの情報共有については、個人情報の取り扱いから本人同意が取れたケースについて情報連携シートを使用して報告する。
- ・参加機関持ち回りで地域課題と思われる協議事項を準備、意見交換を行う。
- ・来年の相談支援部会について、各専門部会及び計画策定部会と併せて開催を調整する。
- ・今後の方針として、引き続き浮かび上がってきた課題を専門部会の中で検討し、提案された対策の検証や周知実行を軸に活動していく。
- ・重層的支援体制整備事業や農福連携事業は、国及び県が整備体制を強化している重要な事業であるとともに、人材不足や人口減少の進んでいる地方では重要な事業ではないかと思われる。香美市においても整備を進めていかなければと考えている。

重層的支援体制整備事業及び農福連携事業の実施についての確認があり、現在は庁内関係部署で協議を行っている段階であり、今後取組を検討すると回答した。

(2) 子ども支援部会からの報告

【資料説明】

- ・放課後等デイサービス及び児童発達支援について課題整理。また、放課後等デイサービス事業所と学童で情報交換を実施。
- ・各支援について保育士及び教員向けの手引きを作成している。手引き完成後は、改めて障害児通所支援について保育士及び教員等に周知し、支援者間の理解を深め、

連携して適切な利用を促していく。

- ・発達障害児への支援について、香美市発達障害児等支援体制整備事業連絡会と連携しながら検討していく。

放課後等デイサービスと児童発達支援の課題の違いについて確認があり、情報共有や連携等で同じ課題が出ていると回答した。

山田特別支援学校から、在校生徒数と卒業生の進路状況について説明があった。生徒数の減少と卒業生の進路として生活介護の受け入れが不足していることが課題になっている。また、新型コロナウイルスの影響で制限を受けていた学習活動と地域での活動について徐々に改善していく。

市内入所施設の利用状況について説明があった。卒業生からの入所希望はあまりないが、在宅障害者の利用希望は増えている。高齢化や強度行動障害などで支援度が高くなっているにより、受け入れが困難な場合がある。また、短期入所及び生活介護も感染症の影響や職員体制等により、受け入れが厳しい状況が続いている。

県実施の職員研修や施設整備への助成について説明があった。

(3) 第4次香美市障害者計画・第7期香美市障害福祉計画・第3期香美市障害児福祉計画の策定について

【資料説明】

- ・計画策定の構成員について、国の基本指針を参考に事務局にて選定する。事務的な修正や聴取した意見の反映について協議する場とする。
- ・障害者計画と合わせて6年とすることについても併せて検討していく。

計画策定にあたって、県計画との繋がりや協力体制の確認が重要との意見があった。

ハローワークでの就職状況について、紹介件数や就職件数は回復状況にあるが、フルタイムで働きたい障害者と求人のマッチングが難しく、求人開拓が課題との説明があった。

一般就労の状況について、例年と同程度の就労が見込まれており、実習件数も増加しているとの説明があった。

(4) そのほか

- ・身体障害者連盟の事務局体制が課題とのご意見があった。
- ・民生委員について、高齢化やなり手不足で欠員が増えており全国的に問題になってきている。引き続き行政とも協力して体制を強化し、市民の理解も含めながら委員の確保していく。
- ・令和3年2月16日付け高知県自立支援協議会宛の提言書に係る県の取組について、説明があった。